

「サッカーで心一つに」

今年1月、約23万人が犠牲となったハイチ大地震で被災した子供たちをサッカーで励まして、被災地で緊急支援活動が続ける国際医療救援団体「AMDA」（本部・北区）の

菅波茂代表、大阪、岡山など3府県の中高生ら25人が16日、ハイチ隣国のドミニカ共和国に向けて出発した。「スポーツで心一つに」と現地地で被災地の子供らを招き親善サッカー大会を開く。

50万人前後が野外出活を強いられている。大阪府のサッカーチーム「FC千里中央」、広島県、岡山県の中高生18人が現地入りする。ハイチからは16人の子供たちがパスポートを取得して参加、ドミニカからも20人の子供たちが集う。ハイチは74年のサッカーワールドカップ西ドイツ大会に出場した経験もあり、サッカーは人気スポーツだ。ハイチの子供たちはAMDAから送られたシューズやボールを使い練習に励んでい

るといふ。AMDAは「サッカーで、復興に向けた求心力を高めた」と期待を込める。現地時間18日、19日に大会が開かれ、初日には、全参加者が犠牲者に1分間の黙とうをささげる。19日には3カ国の子供たちによる混合チームを作って試合する予定。

成田空港であった出発式で、菅波代表は「ハイチの子供たちを見捨てないというメッセージを伝えに行こう。終わってからも交流を続けてほしい」と述べた。

【石戸諭】

参加する岡山県新庄村立新庄中3年、新家夢^{ゆむ}細さん(15)は「調べてみると想像以上の災害で、正直、自分にどこまでできるかわかりません。でも何かを知てきたい」と話した。

までできるかわかりません。でも何かを知てきたい」と話した。

笑顔でドミニカ共和国に向け出発する中高生ら

ハイチ被災子供たちと交流へ

AMDAと中高生が出発



笑顔でドミニカ共和国に向け出発する中高生ら

—成田空港で